

うがいでむせる高齢者がいたら、どうしていますか？

ヘルスケアミーティング 2022

高橋 啓（日本ヘルスケア歯科学会 副代表）

「うがいでむせる高齢者がいたら、どうしていますか？」

皆さんの診療室では、うがいでむせる高齢患者さんがいたら、どうしていますか？ 何か対応をしていますでしょうか。定期的なメンテナンスで長年来院していたら、どこの診療室も「明らかに以前とは違う」と感じることもある高齢者がいると思います。「うがい」のことを言いましたが、高齢者の変化はいろいろあります。わかりやすいところなら、歩行が困難になってきた人、耳が遠くなってきた人、認知機能の低下を感じる人など様々です。日々の診療では、長年メンテナンス通院しているうちに高齢になってくる人も多いかと思えます。

ヘルスケア診療室は、う蝕と歯周病だけなのだろうか？

2022年のヘルスケアミーティングでは、高齢者をテーマに取り上げます。これまでヘルスケア歯科学会は、う蝕と歯周病を中心にみんなで勉強してきました。それは、歯を守ることから始まって、健康を守り育てることにつながる医療だからです。これは今でも変わらない我々の基本です。その基本のうえに高齢期対応を充実させていきたいと思います。

・高齢者の取り組みは、今始めるのがいい！

今まで高齢者対応を特にしてきていない医院の人は、今始めるのがベストです。その理由は、現在日本の施策として、地域においてフレイル対応の準備が進んでいるからです。具体的に言うと、皆さんの周りの市町村において、令和3年度で50%、令和6年度には100%のフレイル対象者の受け皿を市町村が作る方向で、進んでいます。だからこそ、令和4年の今、勉強を始めるのがいいタイミングです。日本の世の中自体が、フレイル対応も含めた社会へ転換している途中だからです。まず、「フレイル」について知識を深めよう

今、高齢者についての勉強を始めるなら、「フレイル」というキーワードを理解しなくてはなりません。フレイルとは、「健康な状態と要介護状態の中間に位置して、身体的機能と認知機能の低下が見られる状態のこと」になります。これは、みなさん既に知識として知っている人が多いと思います。ただ、大事なはその対象者に対して、具体的にどうしていくのか？です。そこは、残念ながら知らない人が多いのが、現状になります。ぜひとも、今回のヘルスケアミーティングで知って欲しいと思っています。

ヘルスケア診療室の強みを生かそう

私は地域的に高齢者の対応を幅広く行っています。その経験から言うと「ヘルスケア診療室は、高齢者にも強い！」と感じています。その大きな理由は二つあります。

長年の通院で信頼関係が構築されている

② 家族単位でその人を知っていることも多い

この二点は、歯科のなかでもヘルスケア診療室の特徴です。まず、日本の高齢者医療（特に訪問診療）は、医科も歯科も訪問から関わり始める新患が対象であることが多いです。そのために信頼関係が構築できず、うまくいっていない事例も散見します。そこへいくと長年のメンテナンスケアで信頼関係もあるヘルスケア診療室の関わりは、大きな意味があると思います。また、家族単位で診ていることが多いこともヘルスケア診療室の特徴です。これにも大きな意味があって、微細な変化を家族に相談したりできることも大きいです。三世代で通院しているなんてことは、他の診療科で

はあり得ません。こういった強みをぜひ生かして欲しいと思うのです。リアル開催で感じること

話は変わりますが、7月10日に認証ミーティングをリアル開催しました。コロナ禍でオンラインにも慣れてきましたが、リアルの大切さもヒシヒシと感じた1日になりました。かく言う自分も正直なところ「オンラインでできることは、オンラインでもいいのでは？」と思っていました。でも、リアルに参加してみると、自分のモチベーション、人との関わりが全然違います。ヘルスケアでは、コロナの状況も見ながらの対応ですが、動けるようになればリアル開催もいろんな形で入れていきたいと考えています。ぜひ、いろんなところで会いましょう。コロナ禍で考えたこと、やってきたことをステップに次の段階へ前進していきましょう。まずは、ヘルスケアミーティング2022から、可能な方は東京で会いましょう。こんな時代ですが、明るく、楽しく前に進んでいけたらと思っています。